サークル学習会のお知らせ　【セクシュアリティ１２４号を読み合う会　第６回】
報告　知的障害者への性虐待事件　和解で全面勝利

永野佑子さん

日時：１１月２６日（木）　１９：３０～２１：００　オンライン開催

【永野さんからのコメント】

2019 年 10 月に発覚した知的障害者が作業所の所長から性虐待を受けていた事件の経過を報告しながら裁判の問題、その支援の様子を伝えます。さらに日本社会の中での性的いじめ、痴漢、盗撮などの性加害・性被害についても考えていきたいと思います。

※**サークル会員限定**の学習会です。学習会の申し込みは必要ありませんが、**サークル会員以外の方で参加をご希望の方は、サークルに入会してご参加ください**。

※サークル会員の皆様には、ぜぶらるの会員一斉送信メールにて、ZOOM の URL をお知らせいたします。ぜぶらるに登録されていないサークル会員の方は、メールでお問い合わせください。（shougai.seikyouiku@gmail.com）

※「季刊セクシュアリティ１２４号（発行　エイデル研究所）は、「障害児・者のセクシュアリティ最前線」の特集号で、サークル会員の実践が数多く掲載されています。１２４号をお持ちでない方は、この機会にぜひご購入いただきますようお願いします。
出版物データベース ｜ エイデル研究所
セクシュアリティ_チラシ 124 号_20260401

セクシュアリティ１２４号を読み合う会　第５回参加者の感想より（抜粋）

- **絵本の使い方、素晴らしかったです。本の中から、いろんな面に広げていける度量に感服です。**
- **永田さんがおっしゃる、学校の価値観の狭さを私も退職してとても思います。いびつな学校を変えていくのは本当に大変だと思います。だからこそ、学校の外での包括的性教育を含む本当の学びの実践をどんどんしていけたらと思う今日この頃です。居場所づくりも。青年たちが呟けるコミュニティも。**
- **こうした学び合いを続けることが大切ですね。**
- **久しぶりに参加できて元気をもらいました！**
- **学び続けると楽しいのは、教員も生徒(卒業生)も同じだなと思いました。私もこれからまだまだ楽しみたいと思います。**
- **とても参考になりました。永田さんの優しい感じがとても素敵で、こんな雰囲気を醸せるようになりたいと思いました。**
- **青年期の学びは、現役の教員には馴染みが薄いように思います。「学ぶ」は知的障害の有無に関わらず、生涯続けられることを、伝えていきたいと、今日の永田さんや千住さんの実践をお聞きして、改めて思いました。**

- 素敵な実践をありがとうございました。早速絵本を求めようと思います。94 年当初は中学校卒業後は就職の時代でしたから、高等部へ当たり前に行けるようになったなあと・・・しかし、卒業後の居場所が難しい今。ワンチームの仲間とともに河村さんたちと学び続けています。こころと体の学習、性と生を考える学習、生涯を通して学び続けることが大切だと、再認識させていただきました。無理をせず、ぼちぼちと仲間たちと付き合っていきたいと思います。ありがとうございました。
- 永田さんらしい絵本での実践、素晴らしかったです。エネルギー不足で滞っている実践を再開しようかなと、背中を押してもらいました。
- 私も絵本が大好きです。ぜひ、一度やってみたい実践です。楽しく自分のことを語れるって本当にいいですね。何を言ってもいいんだというところがいいですね。
- 傷つき辛い思いをしてきた人たちが、学びの場を通して過去の思いを伝え、ありのままの自分でいいんだと思えるようになっていく過程がすごいと思いました。絵本選びに始まり、目の前の青年たちにピタリと合わせて教材化しているところもすごいです。いくつになっても学びの場・居場所があれば、こんなにも豊かに発達・成長していくことを再度確認できました。生涯学習・生涯発達を視野に入れることが本当に必要であると思いました。
- 絵本の実践、本当に素敵ですね。私も、青年たちにこころとからだの学習をしていますが、日常会話の中で自分のことを話せる人も、授業の場ではなかなか話せません。まだまだ、安心して何でも言い合える集団にはなっていないのでしょう。職員みんなで、集団作りについて考えてみたいと思います。今日のお話をヒントに絵本の取り組みもやってみたいです。